



援交彼女



彼女の名前は、『茅ヶ崎美里』。

この学園には、
テニスサークルが二つあり、
男子と女子で、交互に使う事になっている。

彼女の周辺には、
自然と人が集まり、
麗しい汗と、彼女の美しい美貌を
眺めに来る。





ところが最近、
彼女の周辺には輩が集まり、
彼女にヤジを入れる。

彼女には、ファンも多いが、
ちよつかいを掛けたがる者も多いのだ。



俺は、そんな彼女を、
取られたくなかった。

昔からのファンである俺は、彼女をずっと好きだった。

—だから、強姦する事にした。









言わないなら、
またあのおじさんに頼んで、
円交動画撮らせるから。

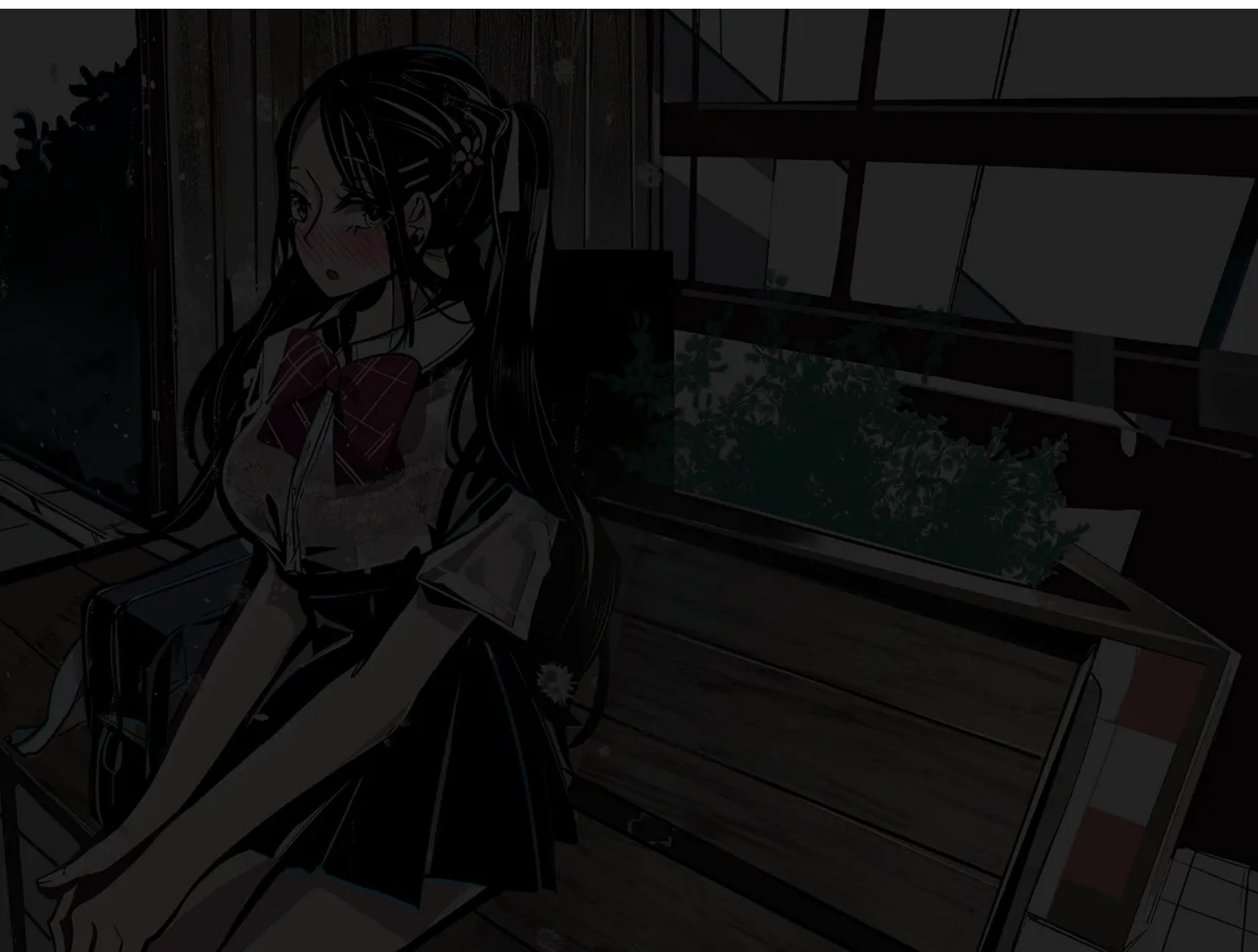
そ、そんな……んっっ♡

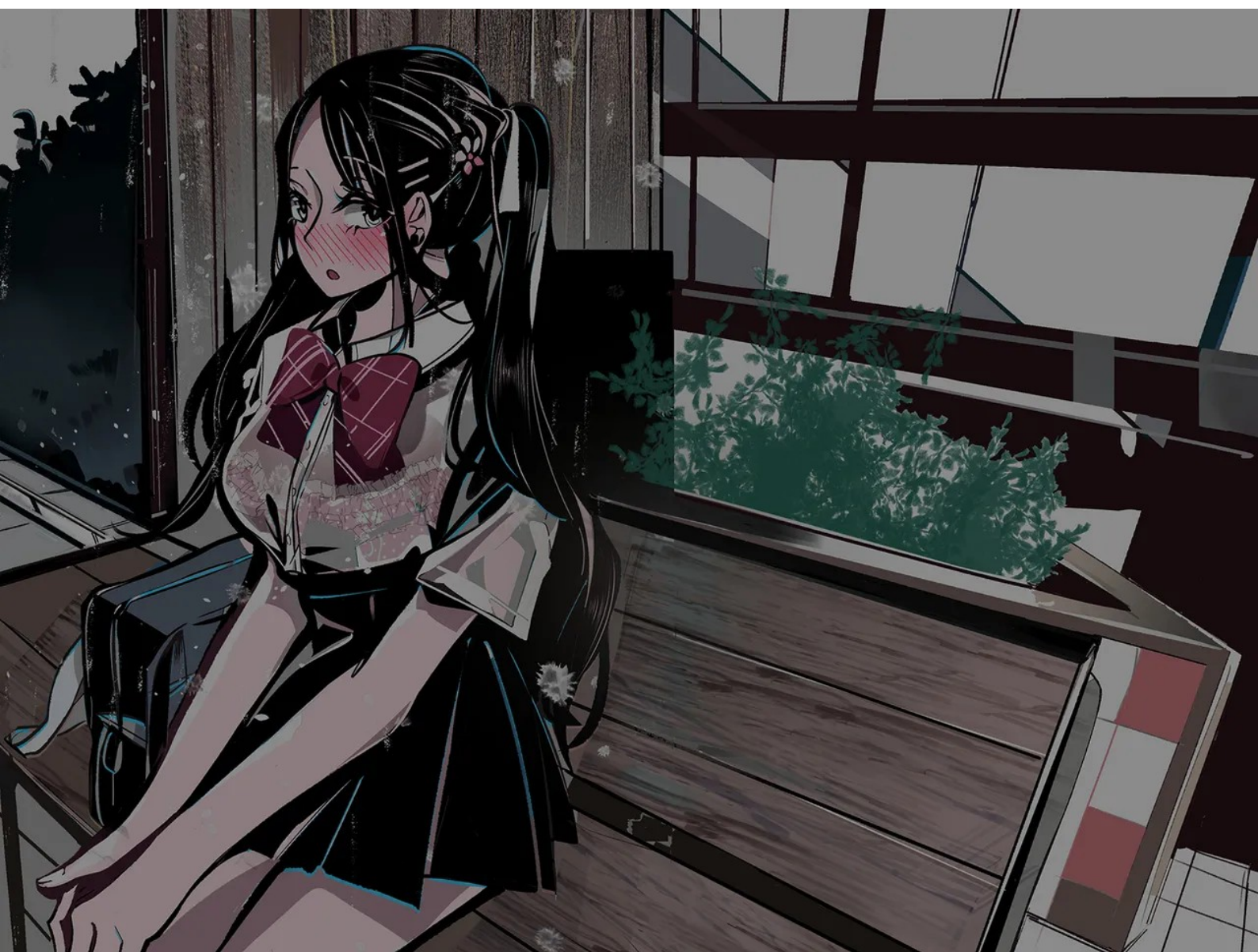
私の理性は、
崩壊寸前だった。

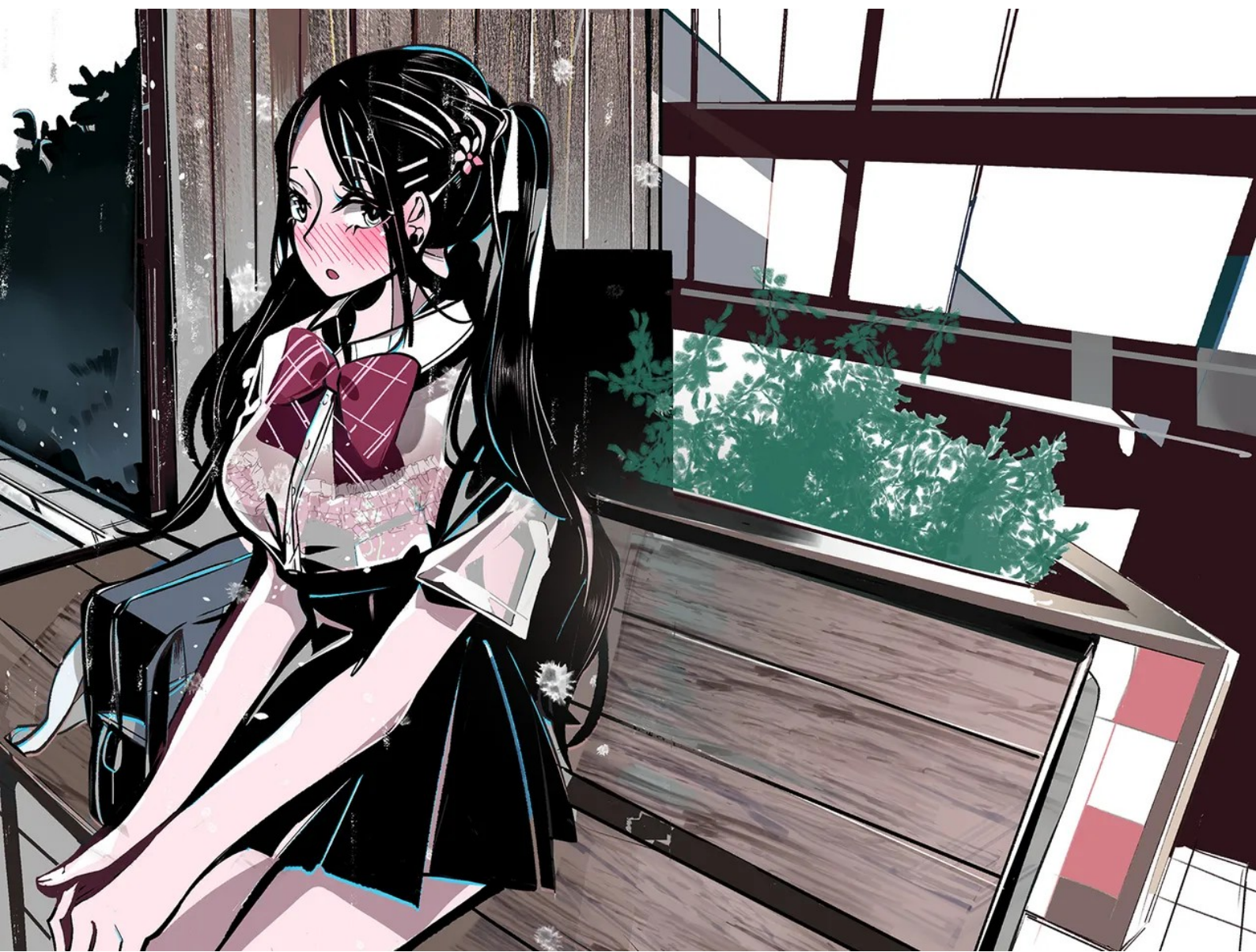
このまま、男と、あのおじさんに屈しようか。

そんな事も考えられなくなるくらい、
男は激しく攻めてきた。











おじさんとは……。

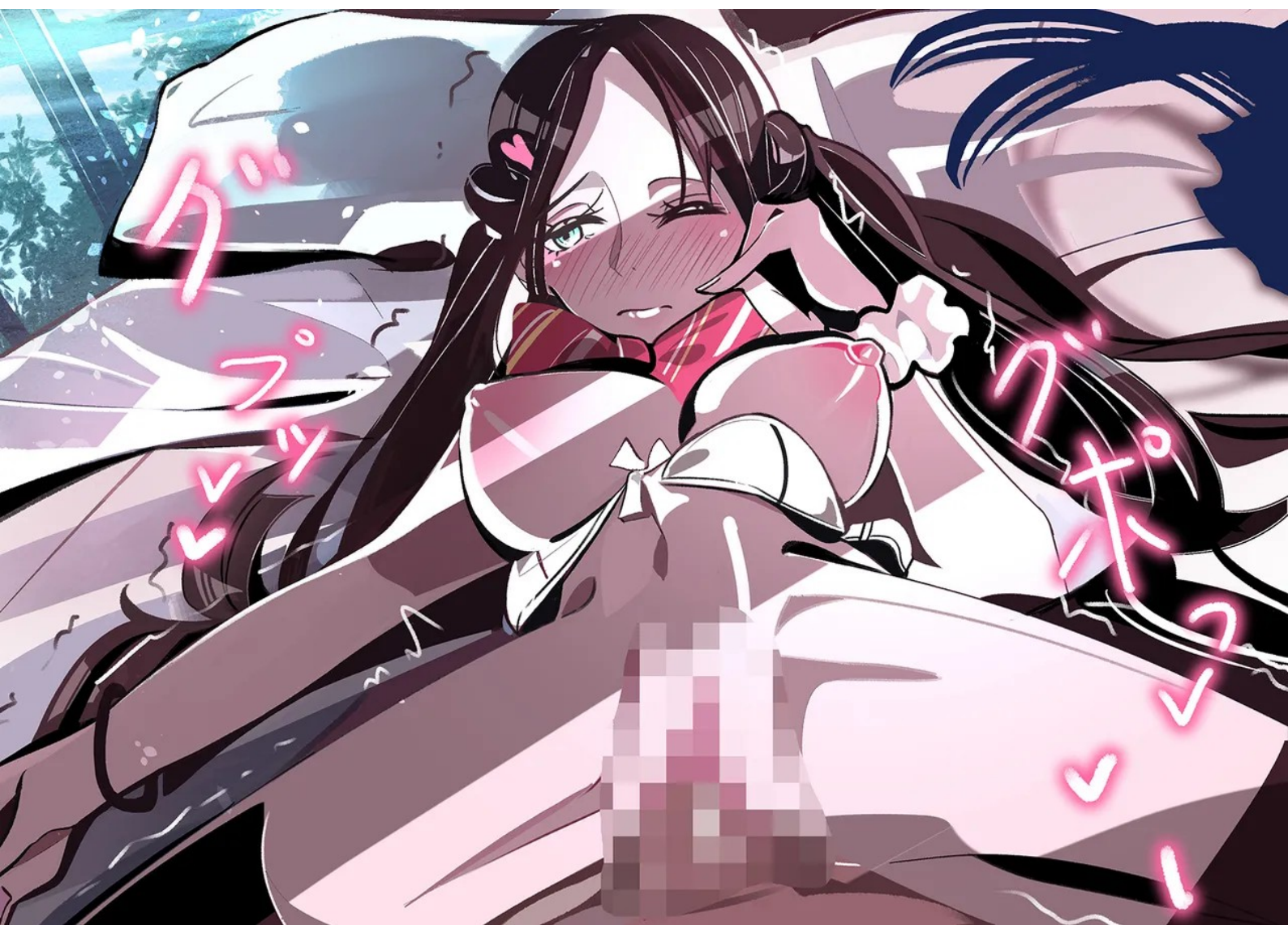
妹の紗枝は、
昔から学校をサボりがちだった。



近所のおじさんは、
面倒見も良く、信頼していたのだが、
妹は、そんなおじさんにハメられていた。
近所馴染みの程で紗枝に近づき、
お金で彼女を誘っていた。



私はそれに気付けず、
彼女を好きにさせていた。
けれども、それが大きな間違いだった。





あ〜いいま〇こしてるねえ
紗枝ちゃん♡

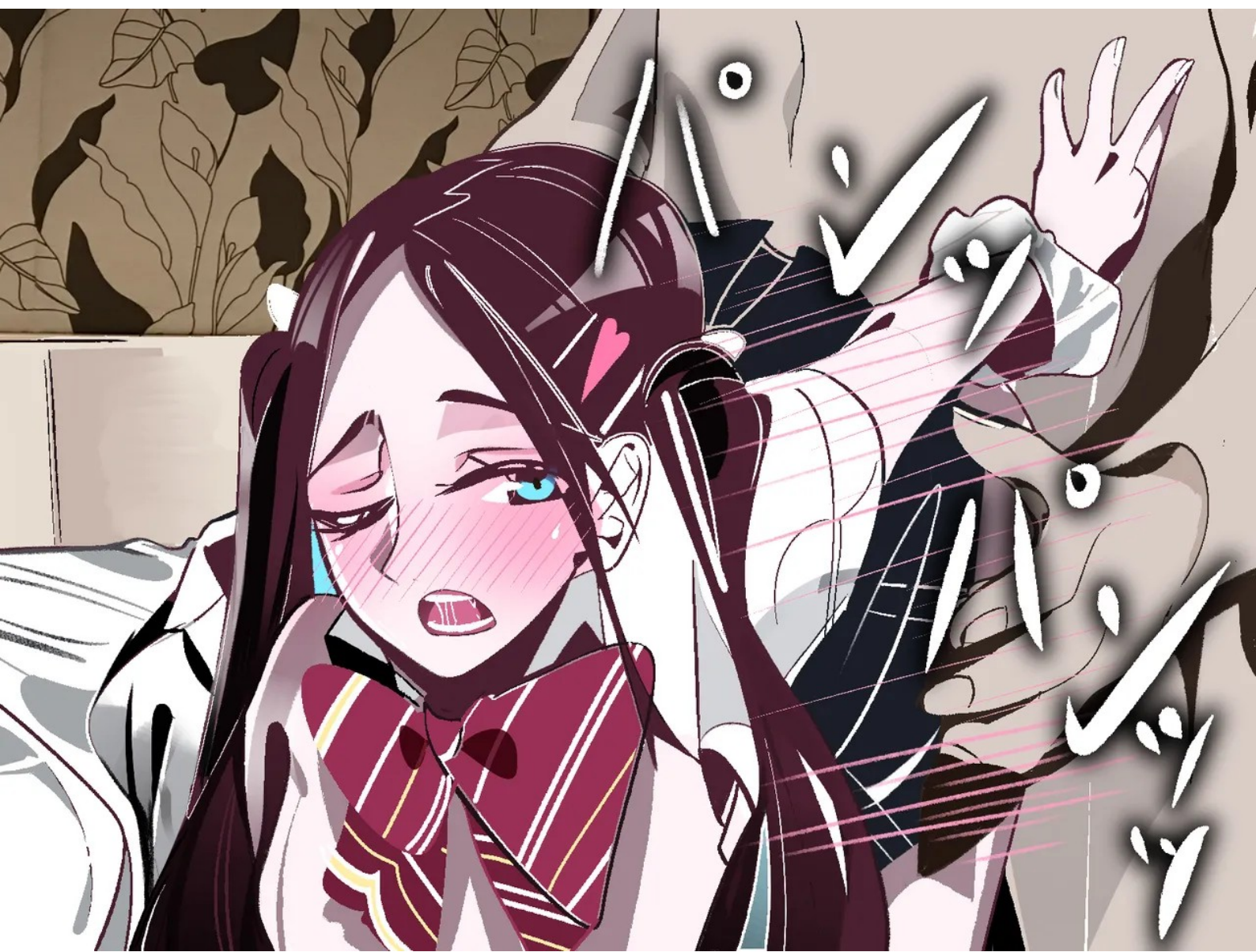
そ、そうかな…
恥ずかしい……。



彼女は、おじさんに完全に屈服していた。

まだ数回しかした事が無いであろう
純粋な○んこを、

おじさんは、ねっとりとなぶる様にして
見つめる。





あー紗枝ちゃん、
もう一回、中で出すよ。

えっ

中はだめッ

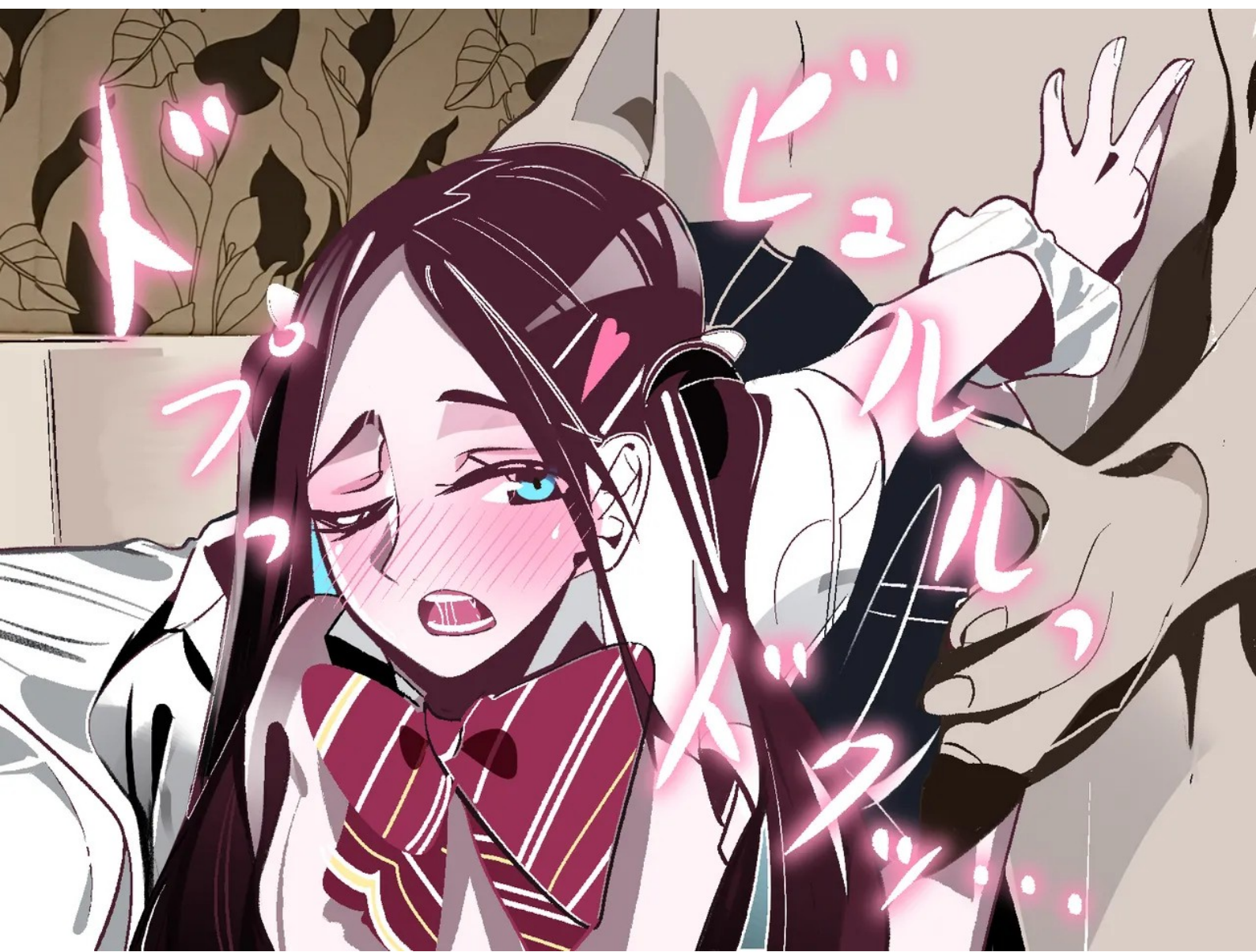
ダメダメッ

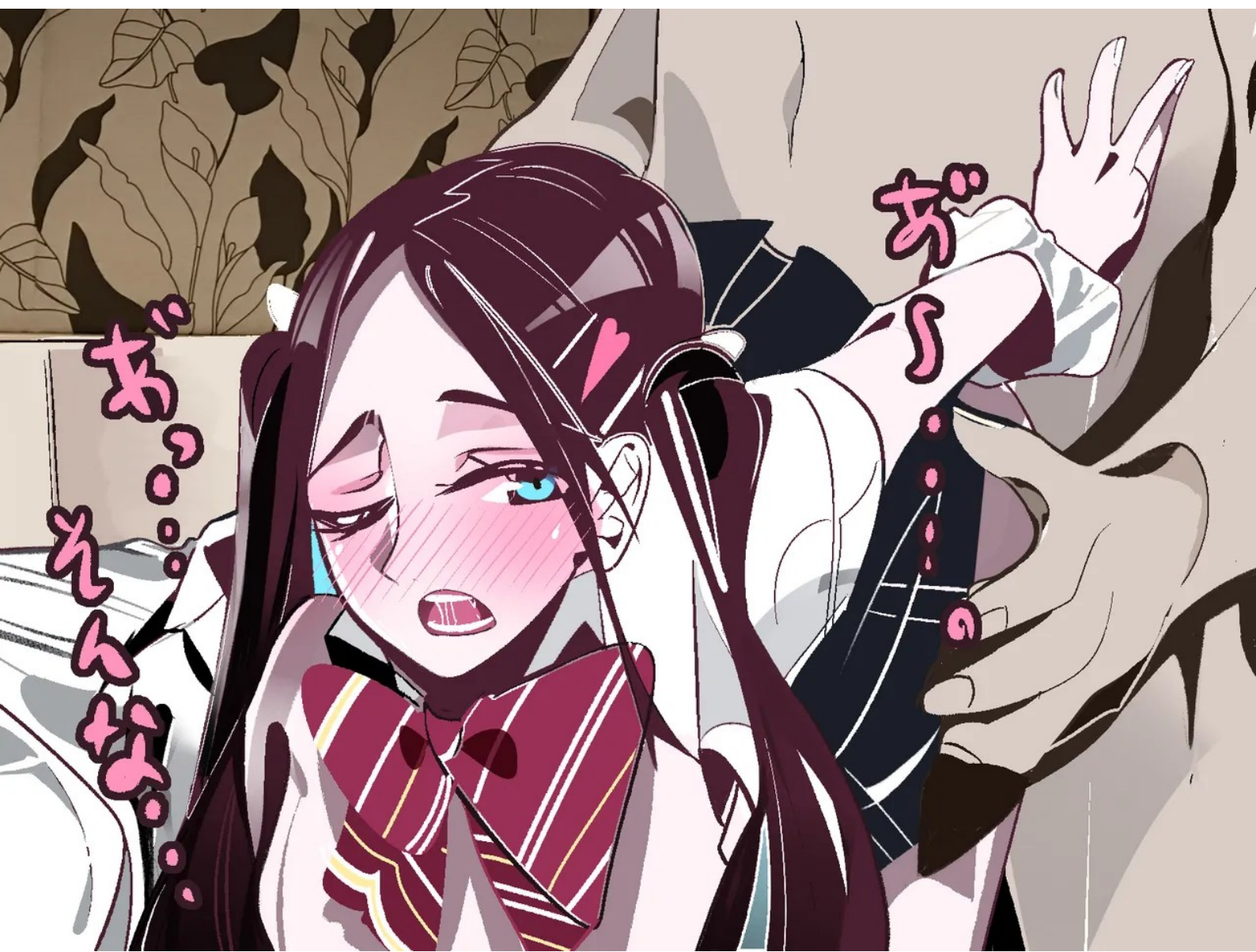


オラガキッ

孕めやあああッ

ああんっっ♡♡♡







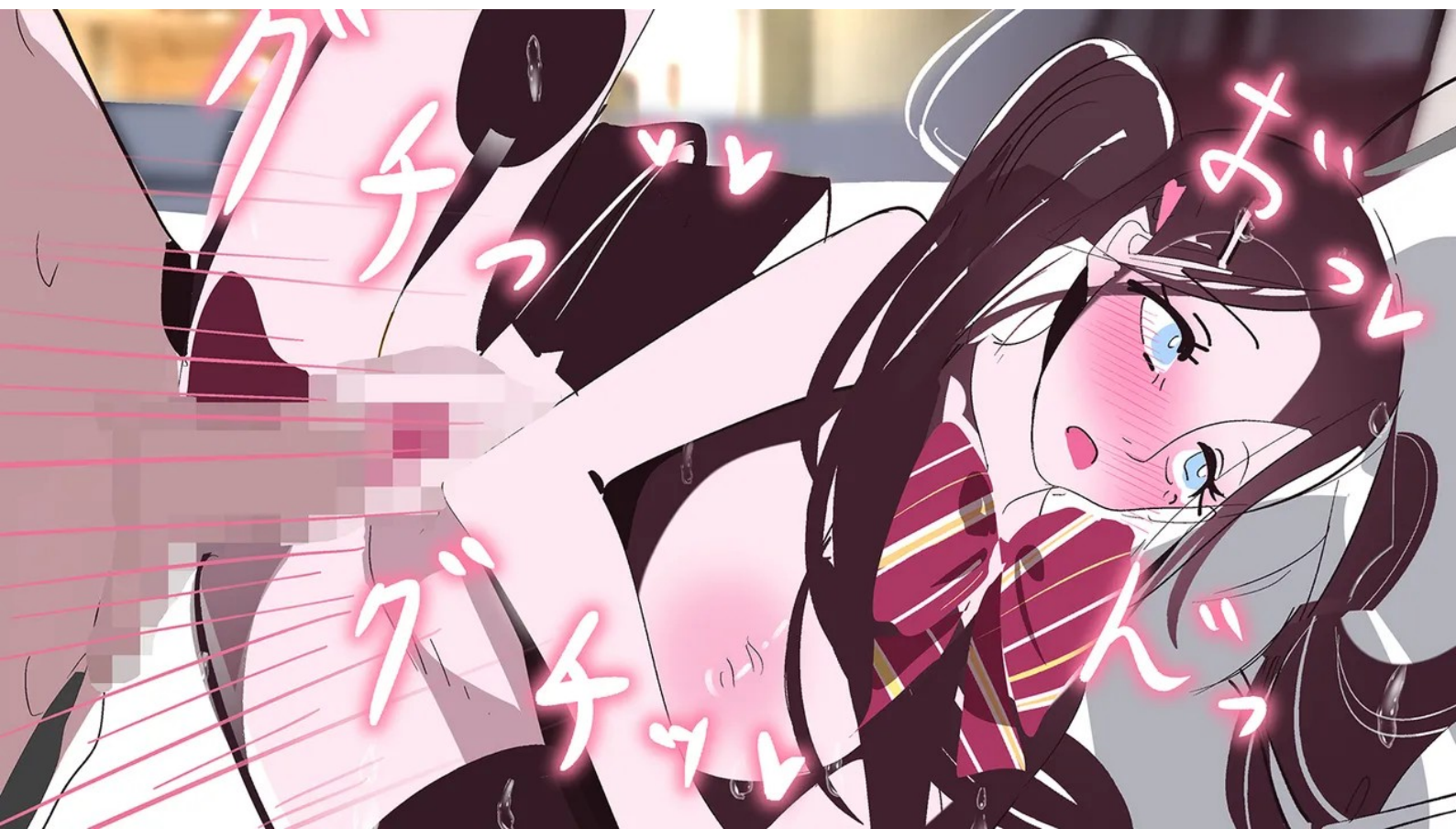
ッ
あー。

ガキはすぐ○んこ開くね。





おじさんは、
私の携帯から
連絡先と、住所・電話番号を抜き取った後、
私が、かすかに喜んでる様に見える角度で
写真を撮り、
そのまま私の方を見て、帰って行った。



流されるつもりはなかったが、
私はどうしても
快楽に抗えず、
男の為すがままになっていた。

彼の攻めは強烈で、
私の手には追えなかった



彼は私のアナルにちん〇を突き立てると、
そのまま愛撫する様にして、
私の股間を刺激して来た。

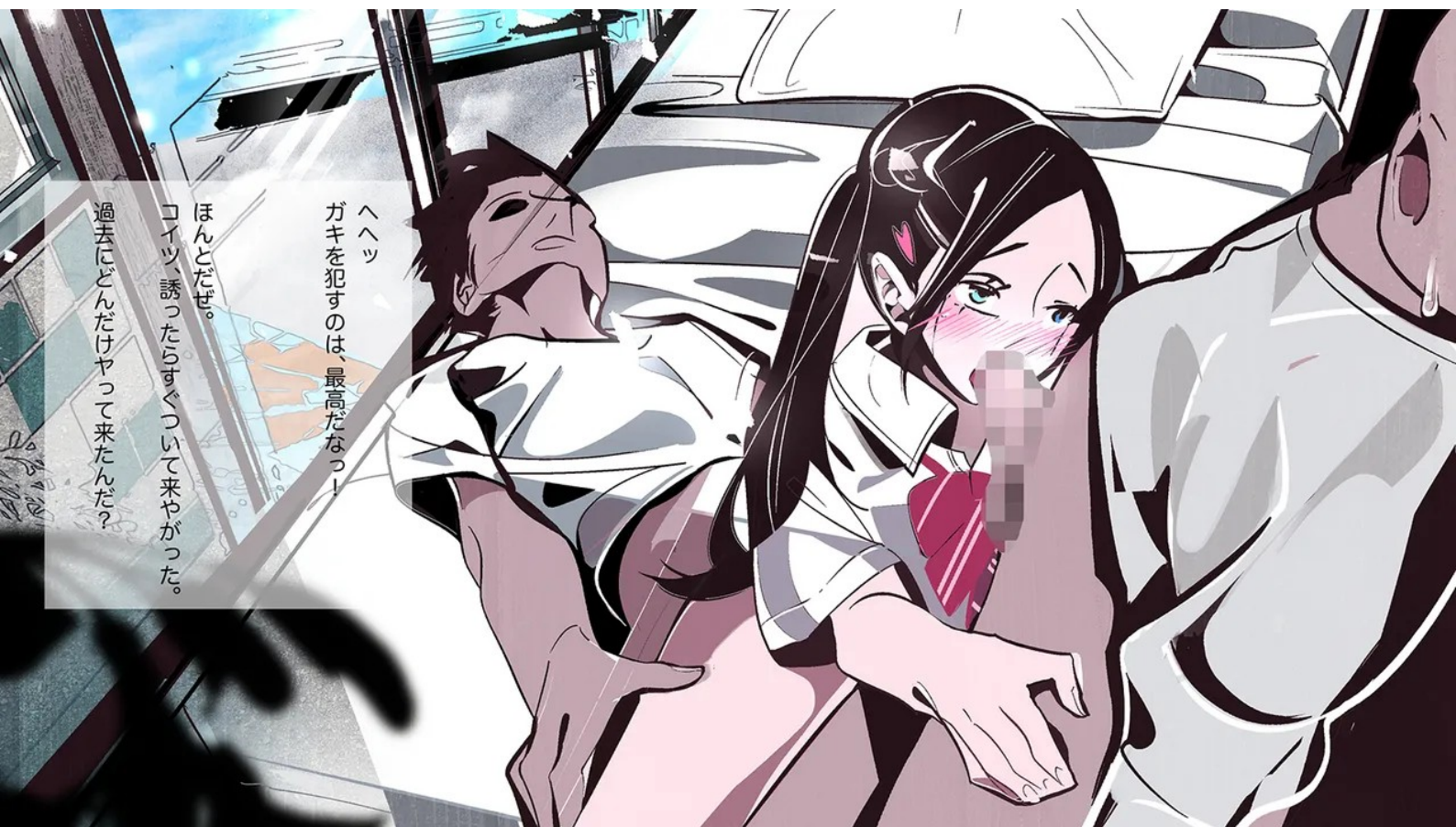




オラっ







へへッ
ガキを犯すのは、最高だなっ！

ほんとだぜ。

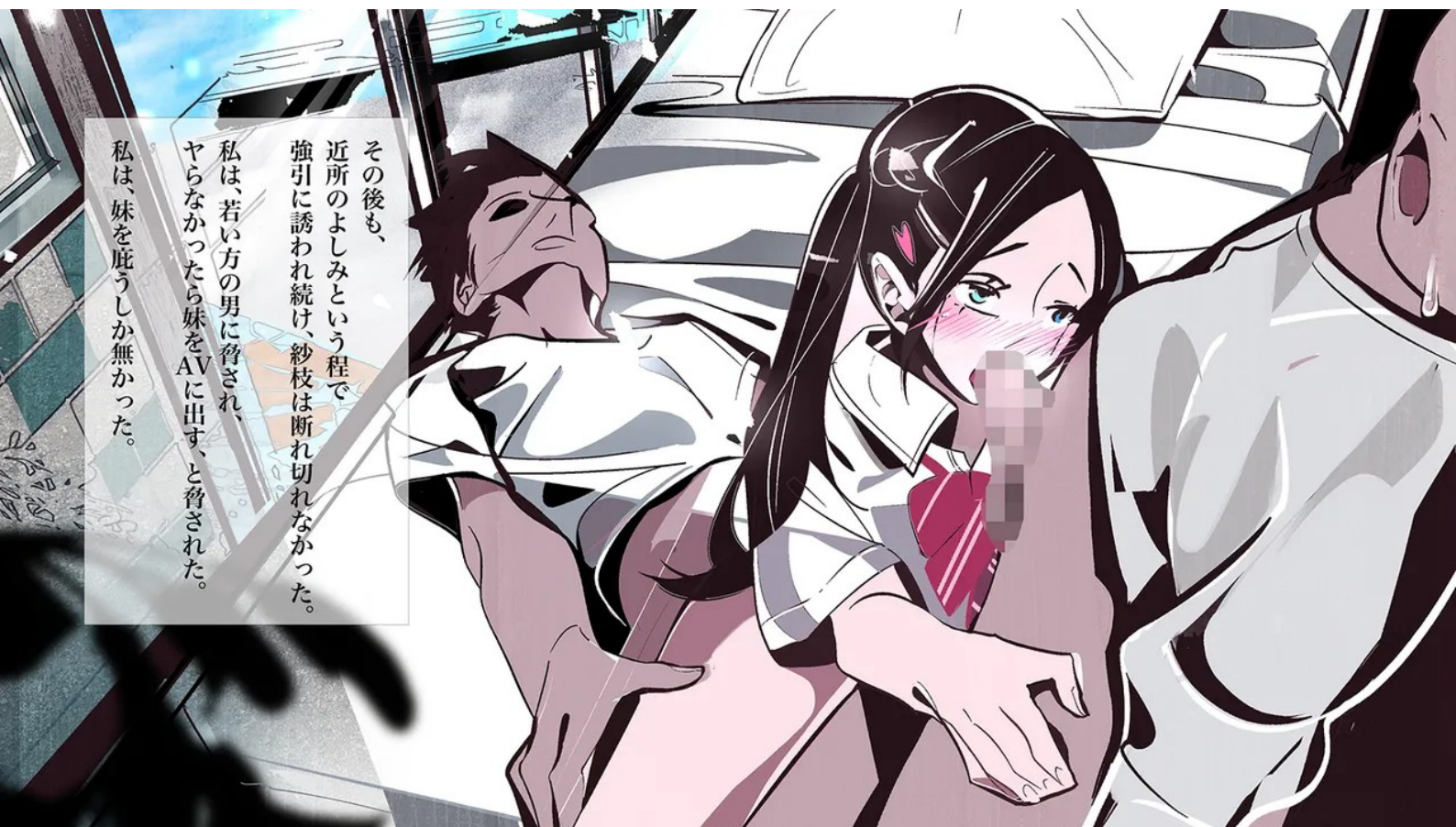
コイツ、誘ったらすぐついて来やがった。

過去にどんだけやって来たんだ？

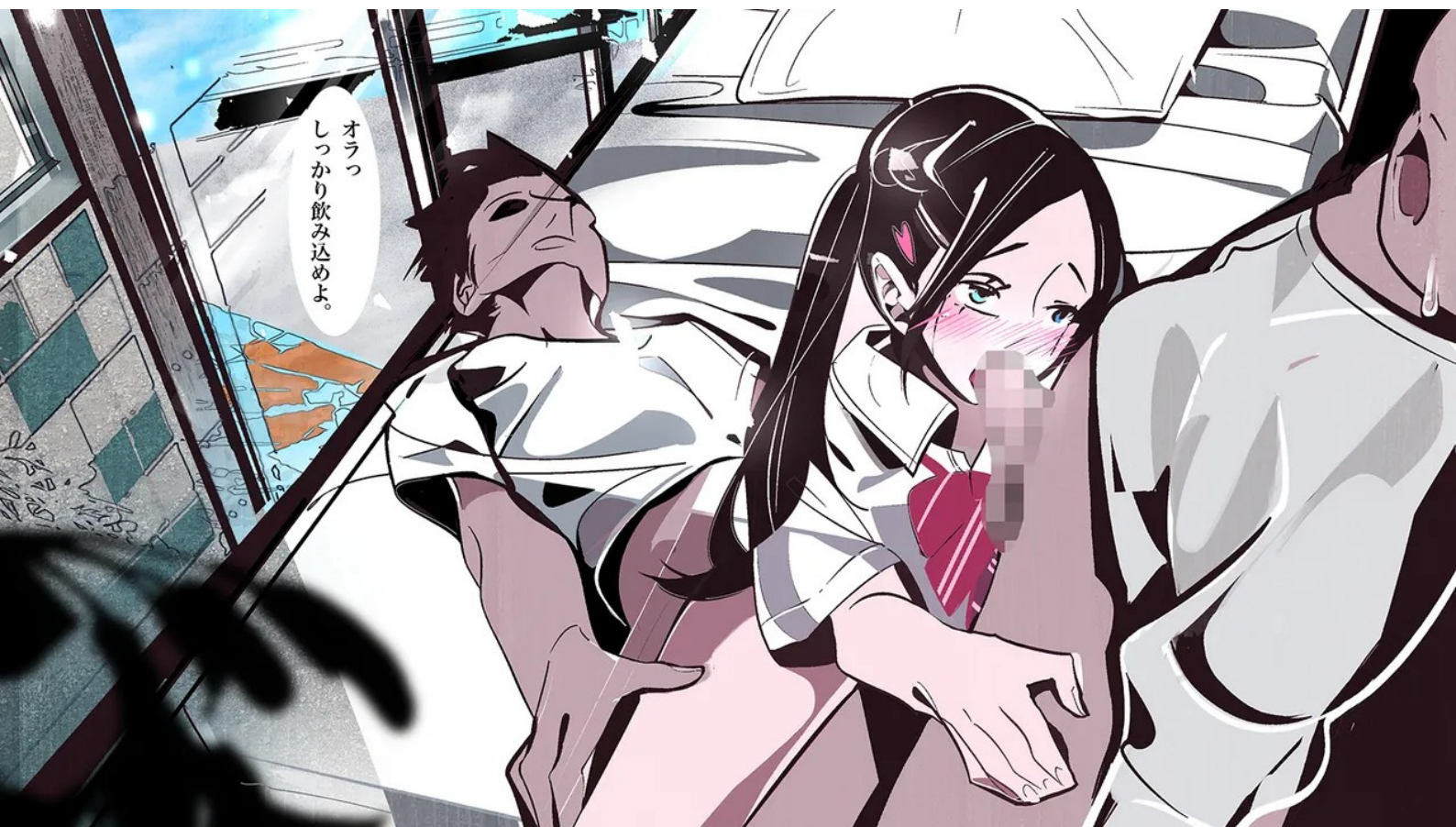


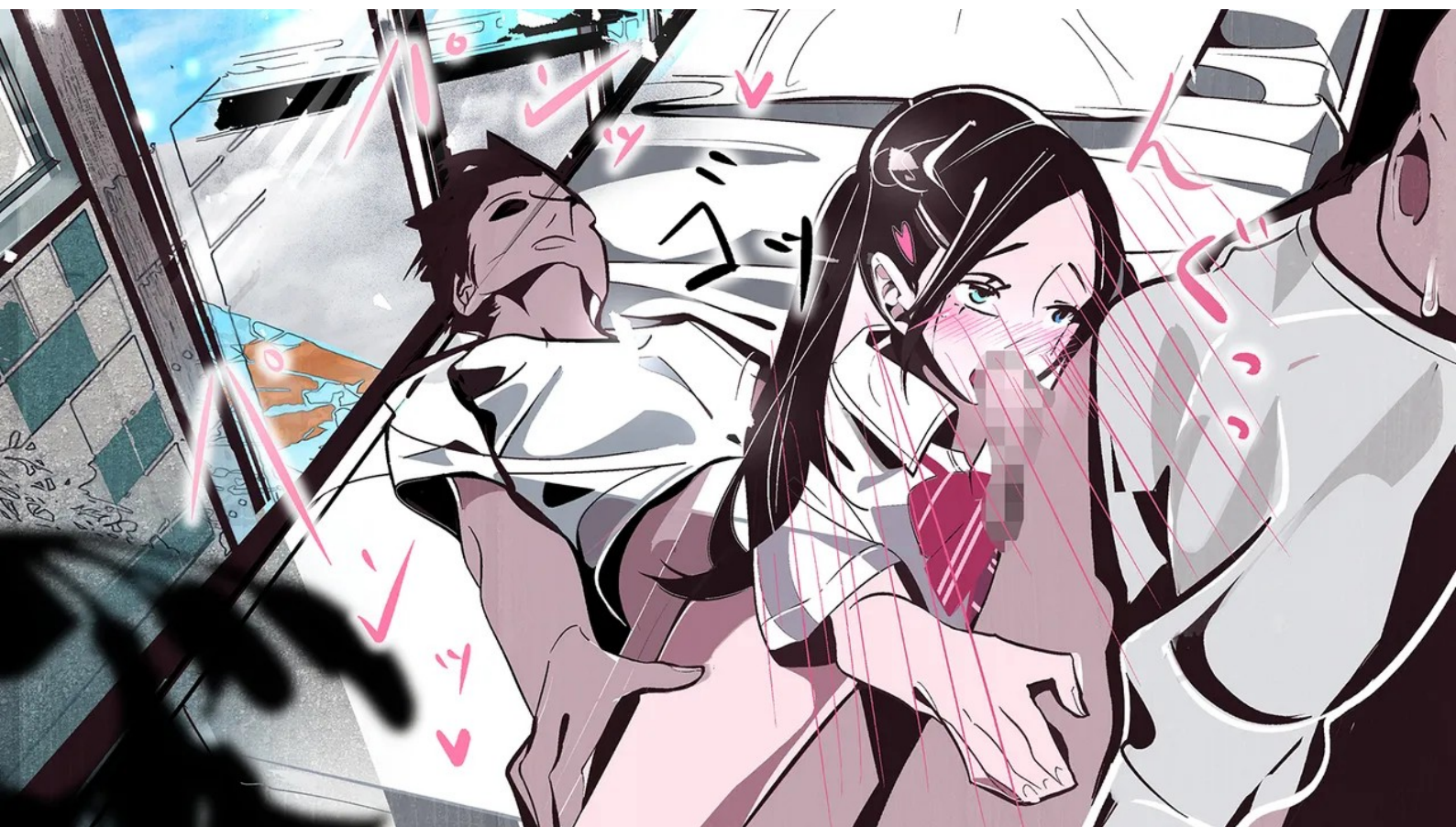
そう、彼らは親子なのだ。

紗枝の処女は初めての時に
あっさりとおじさん達に奪われ、
そのまま男達の餌食となった。



その後も、
近所のよしみという程で
強引に誘われ続け、紗枝は断れ切れなかった。
私は、若い方の男に脅され、
やらなかったら妹をAVに出す、と脅された。
私は、妹を庇うしか無かった。







どうせこれが欲しかったんだろ、オラッ。

ち、ちがッ……うぐっ



私は、彼のちんぽを強引に
啜え込まされ、そのままぐっぽぐっぽと口腔へ
押し込まれます。

強引な逸物に、私の頭の理性は吹っ飛んでいきました。











あ、あの、
もういいですか？

ダメダメ。
美里ちゃん、俺の事好きだよね？



そ、そんなはず……っ

嘘つけよ。美里。
俺のちん〇でめっちゃヨガってたじゃんw









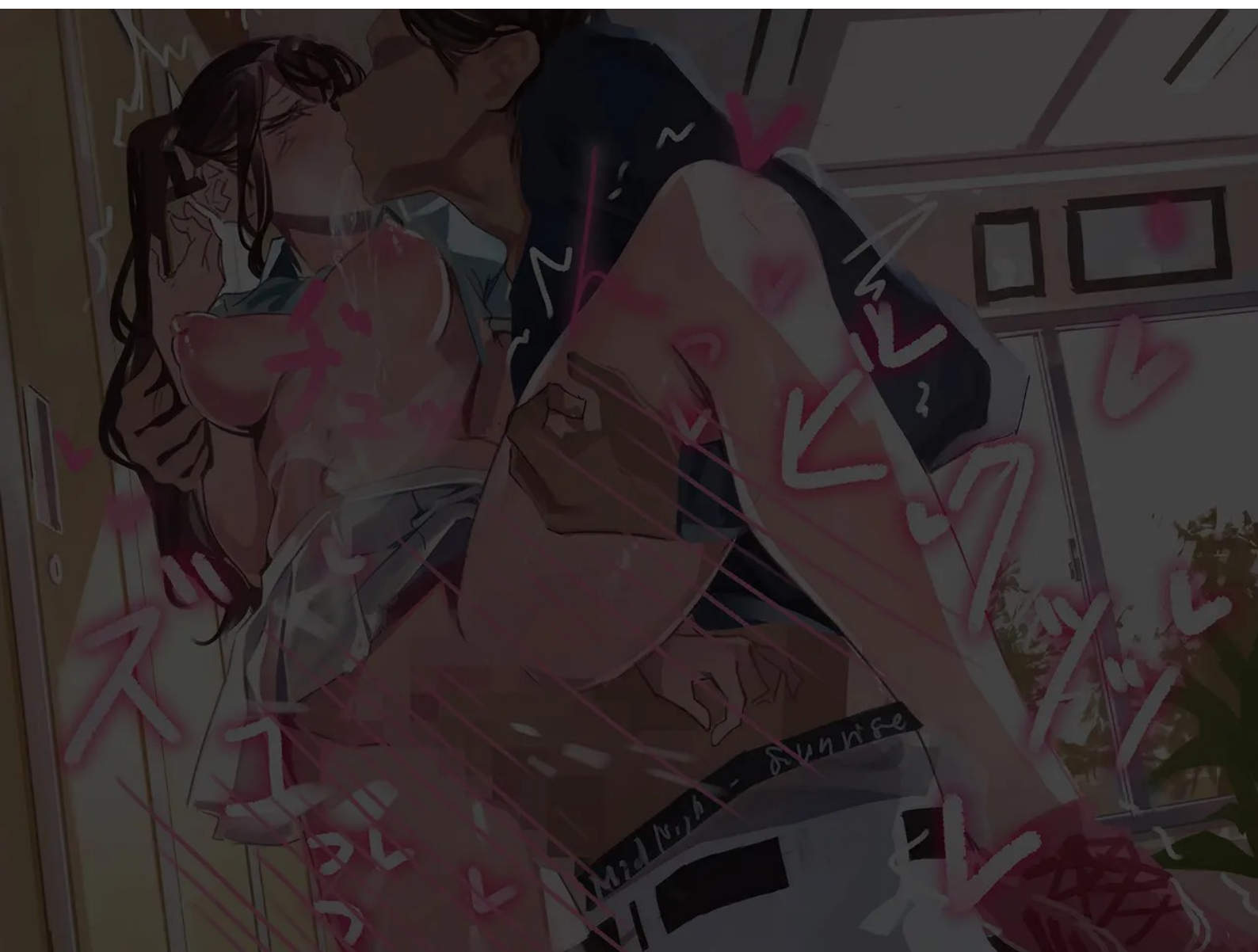
私の体はおかしくなりました。
エッチな男の攻め方に、
抗う事が出来ない。

抗い様のない、
性の強さを感じてしまいました♡











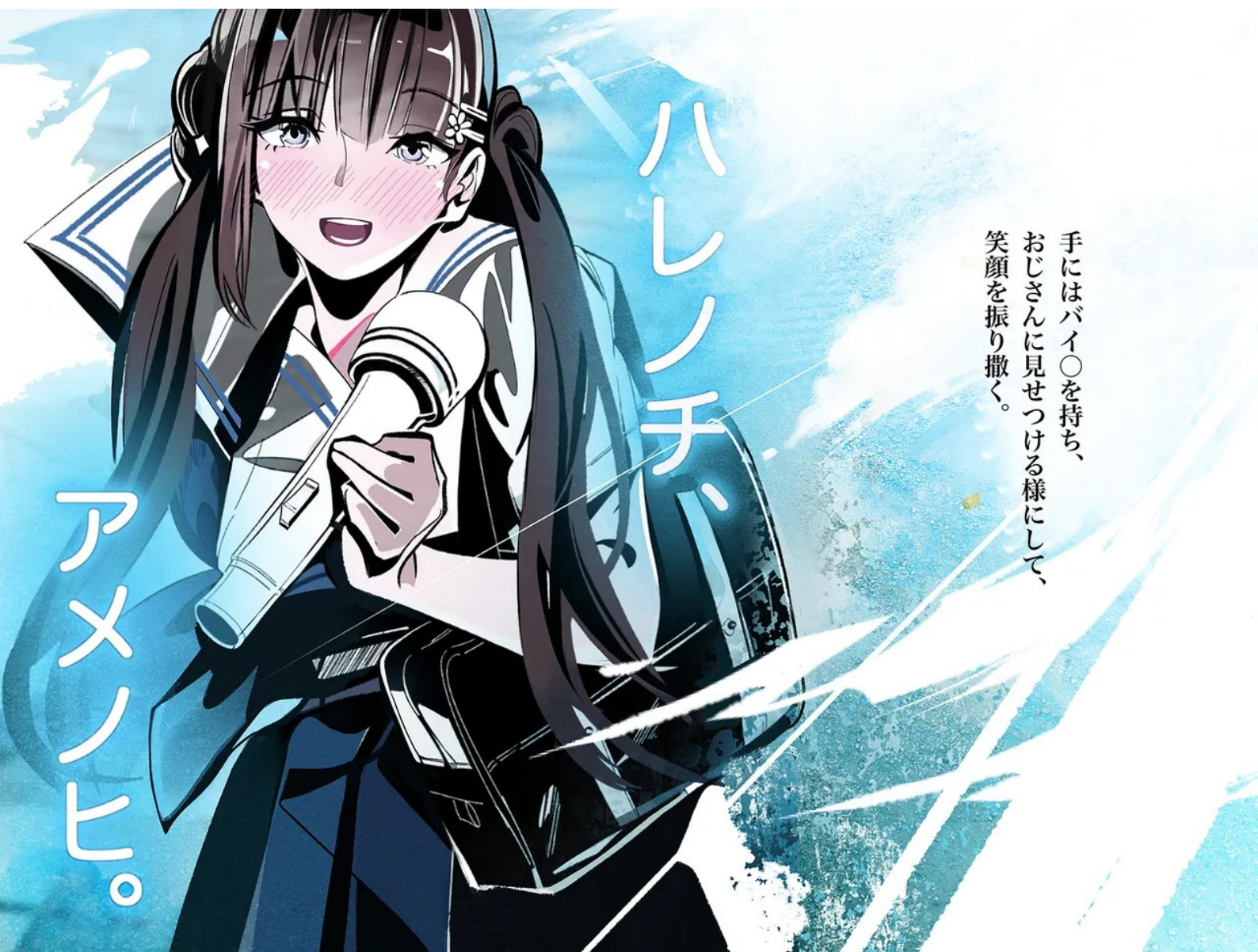


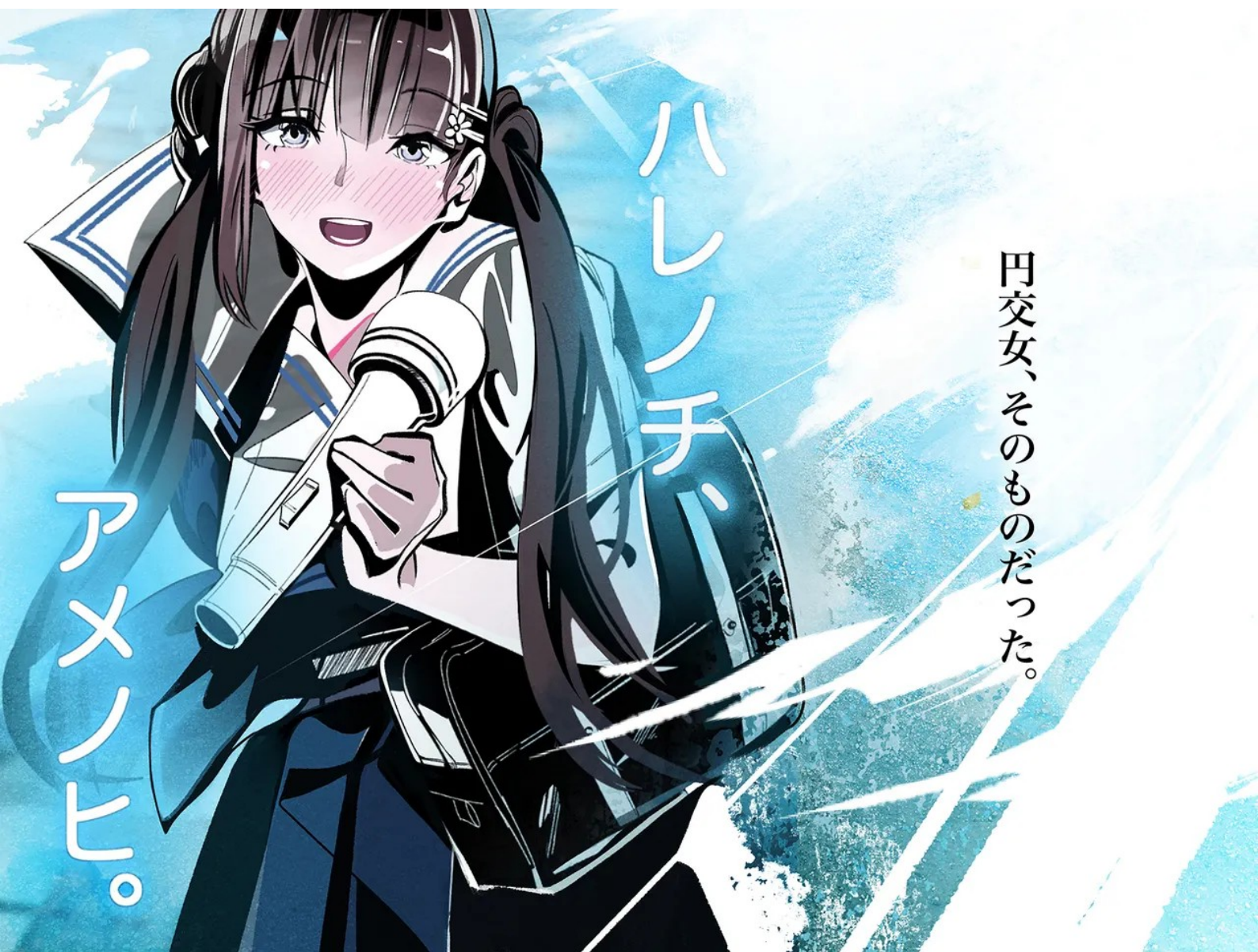
それから彼女は、
妹と同じ髪型をして、
○交をする様になった。

手にはバイ〇を持ち、
おじさんに見せつける様にして、
笑顔を振り撒く。

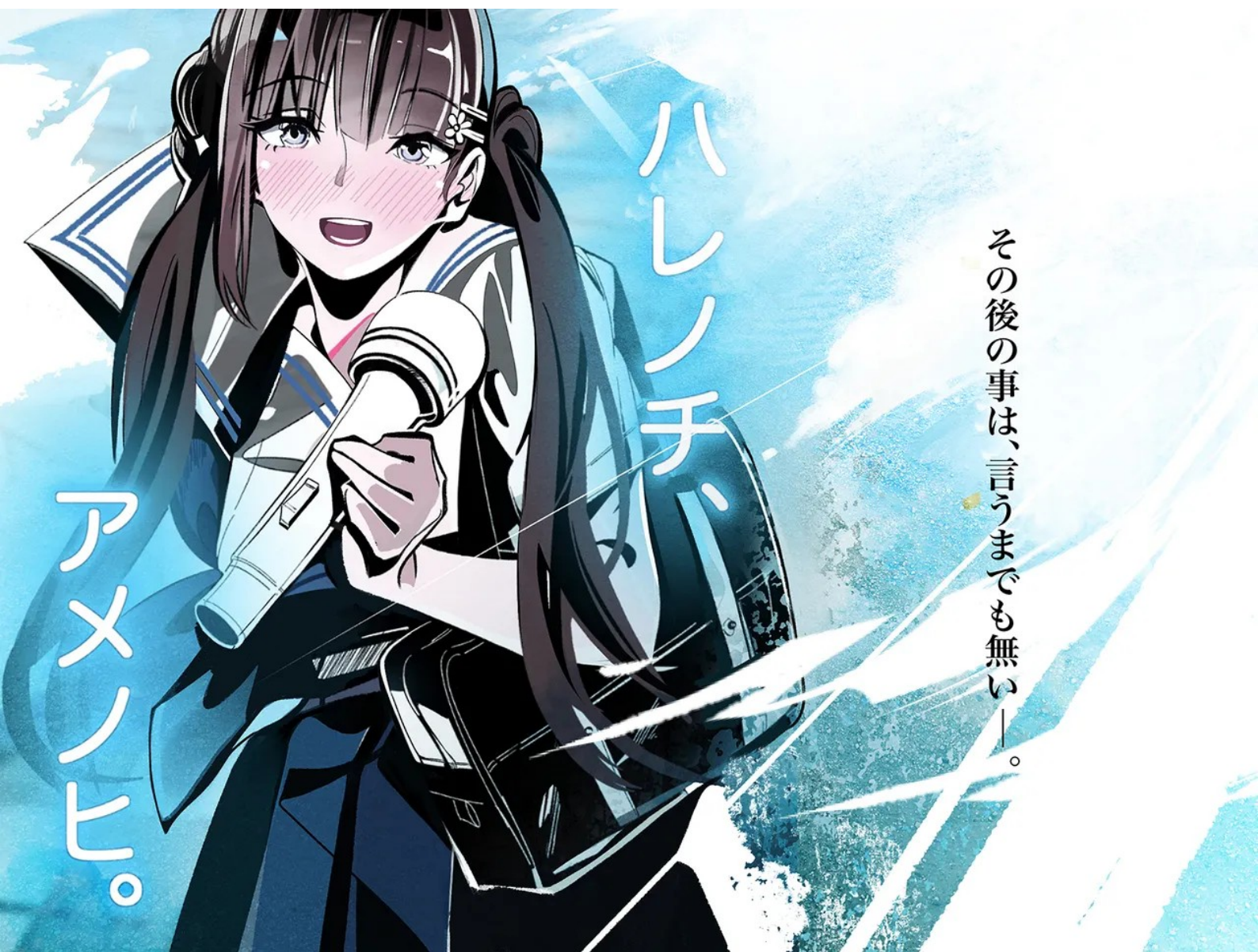
ハレンチ、

アメノヒ。





円交女、そのものだった。



ハレンチ、

アメンビ。

その後の事は、言うまでも無い――。

